

1 新図書館等建築実施設計の検討状況について

(1) 各フロアの平面図、ユニバーサルデザイン等について

< 2～15 ページ >

(2) 南海トラフ巨大地震への対応等について

(ア) 対応

【構造設計】

- ・新図書館は免震構造であり、告示波とサイト波(建設地の地盤条件等を考慮した模擬地震波)による応答解析を行い、性能目標及び安全性を確認する必要がある。
- ・指定機関による性能評価及び国土交通大臣の認定が必要。

【経過】

- ・実施設計においては、2003年中央防災会議モデルによる模擬地震波をサイト波として応答解析を行い、確認することとしていた。
- ・しかし、H24.3.31に新想定が公表されたことから、この新想定に基づく模擬地震波での検証を行うこととした。

(南海トラフ巨大地震による新想定にかかる経過)

- H24.3.31 新想定(第一次報告)の公表(震度分布:高知県は震度7～6弱)
→ 震度分布については、基本ケース、東側ケース、西側ケース、陸側ケースの4ケースが検討されている。
- H24.4.12 新想定のパラメータ(データ)提供開始
- H24.5.14 新想定「陸側ケース」による模擬地震波の作成(5.14～6.27)
→ 応答解析の結果:これまでに経験していない規模の地震動であり、建物性能を満足できない(6.26)
- H24.7.9 新想定「基本ケース」による模擬地震波の作成(7.9～8.7)
→ 応答解析の結果:免震装置仕様の調整等により対応可能(8.28)
- H24.7.19 「超高層建築物等の大臣認定申請における留意事項について」国土交通省住宅局長
→ 最新の知見を踏まえた南海トラフの連動型の巨大地震等により建築物が倒壊、崩壊しないことの検討を行う旨の内容
- H24.8.29 南海トラフの巨大地震による津波高・浸水域等(第二次報告)及び被害想定(第一次報告)が公表される。

その後、内閣府の動向等を注視するとともに情報収集に努め、模擬地震波の計算方法の見直し等についても検討を重ねる。

【南海トラフによる巨大地震への対応の考え方】

- ・国土交通省住宅局長の文書より、構造設計については2003年中央防災会議モデルを基本とするが、南海トラフ巨大地震に対する検討は必要。
- ・県有施設の整備の進め方について検討を重ねた結果、新図書館については、多くの県民の利用に供する施設であり、津波避難ビルとしての機能も持つことから、最大クラスの地震(基本ケース)に対応できる建物として整備する。

(イ) 全体スケジュールへの影響等

- ・南海トラフ巨大地震による新想定への対応。
- ・陸側ケース、基本ケースによる模擬地震波の作成、応答解析による検証等に不測の日時を要したため、実施設計の期間を延長する必要が生じた。

< 16 ページ >

(3) 新図書館等複合施設の運営についての検討状況

- ・各施設の基本構想及び基本計画を踏まえた運営の検討を行う。
- ・利用者の立場に立った開館日時等の検討を行う。
- ・コア業務以外は、委託等により効率化を図る。

【開館日時】

< 案 >

- 休館日:毎週月曜日(祝日除く)、第3金曜日(8月除く)、資料整理(8月:4日間)、
年末年始(12/29～1/4) ※年間300日程度開館
- 開館時間:平日9時～20時、土日・祝日9時～18時
※こども科学館(仮称)については、全日9時～17時
※点字図書館については、別途検討中

< 現状(県立図書館) >

- 休館日:毎週月曜日、月末金曜日(12月除く)、祝日(5/5、11/3を除く)、資料整理(2月:4日間)、年末年始(12/28～1/4) ※H23:288日開館
- 開館時間:平日9時～19時、土日9時～17時

2 こども科学館(仮称)の展示実施設計の検討状況について

(1) 平面図(ゾーニング等)

< 17 ページ >

(2) 展示アイテムの検討状況

< 18 ページ >